

⑫【単年度】新モビリティを活用した高齢者などに優しい常盤通り周辺の空間構築に向けた社会実験 (山口県宇部市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ 国道190号(常盤通り)のウォークアブル化に向けて、滞在空間としての施設等の設置を踏まえ、滞在空間の利活用状況や持続可能な施設の管理運営を検証する。
- ・ ほこみちや路肩の柔軟な活用に関する有効な検証であり、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取り組みとなること。

2. 実験内容、実験結果

- ①常盤通り周辺における新モビリティの運行
⇒グリスロの平均1日当りの利用人数は目標値10人/日を上回ったが、運行初日と大型イベント時以外は10人/日に満たない
- ②DXを活用した情報発信及び分析
⇒駐車場混雑度のウェブサイトが役に立ったという割合が92%であり、駐車場混雑度の情報が役に立つことを確認
- ③持続可能な管理運営
⇒貸出スペースの利用者満足度は35%と低く、キッチンカーは臭いが気になるなど、環境に対する意見があった
- ④常盤通りの空間づくり
⇒歩行者が道を塞ぎ、自転車通行を阻害するヒヤリハットが4日間で8件確認



AIカメラによる駐車場混雑度のデジタル情報発信

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
今後の管理運営のことを考えることが非常に重要である。今後の管理体制をどうしていくかなど、恒常的なマネジメントについて考えること。	運営にあたっては、中間組織を設けることを検討している。社会実験を通じて、検討を進める。
実験計画書に高齢者やスローモビリティについて記載されているが、これらについて意見やニーズをしっかりと取り入れること。	高齢者からは駐車場が少ないという意見が多い。その対応の一つとして今回グリスロ(グリーンスローモビリティ)を運行している。ただし、グリスロの速度が20km/hしか出ないため、交通の安全性等を考慮したうえで、警察とも協議し、今回のルートを決めているところである。社会実験を通じて満足度を検証していく。
自転車について、当該箇所は保育園等の利用もあるが、国道は大型車が多い。矢羽根整備が良いかどうか、個人的には疑問を感じている。安心感のある走行空間となれば良いと考えているため、地元の意見をしっかりと聞きながら検討すること。	自転車通行については、協議会や部会でも議論の一つとなっているため、社会実験によるアンケート結果や安全対策等を含めて、ルール作りや空間整備を検討していく。南北にも道路が整備されているため、その使われ方も踏まえて、長期的視点で自転車走行空間の検討をしていく。

⑫【単年度】新モビリティを活用した高齢者などに優しい常盤通り周辺の空間構築に向けた社会実験（山口県宇部市）

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
モビリティについて、平常時の利用はあまり見込めないと考えられる。	大型イベント時など他のモビリティも含めた運行の可能性を検討する。
駐車場混雑度の情報発信をウェブサイトで行ったが、閲覧者数が少なかった。	ウェブサイトの閲覧者数を増やす手法（周知方法や構成等）の検討を行う。
出店者から、「出店料を徴収しているのに対して、広告枠が不十分である」などの意見があった。	出店料の適正な金額設定や広告の手法を検討する。
自転車と歩行者のヒヤリハットが4日間で8件確認された。	自転車と歩行者の通行について、引き続き協議会等でルール作り及びその案内（明示）方法を検討する。

5. 今後のスケジュール

- R6～R7年度 ウォーカブルな空間の全面供用開始に向けた情報発信や中間組織による管理運営等の検証に関する社会実験
- R8年度 ウォーカブルな空間の全面供用開始

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 大型イベント時など他のモビリティも含めた運行の検討が必要だと考える。
- ・ ウォーカブル化を進めるためには空間整備だけでなく、整備後の空間の持続可能な管理運営が重要である。
- ・ イベントの企画運営や情報発信を継続して実施するには、現地スタッフ（アルバイト）とは別に専属の職員を配置するなどの体制の検討が必要である。
- ・ アーバンスポーツエリアの舗装材は、音を抑えられる素材を検討し、ルール作りを十分に行うことで、沿線住民等の理解を得ることが必要である。